

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11850

研究課題名(和文) 地域特性に基づく在宅ターミナルケアとソーシャルキャピタル醸成の在り方に関する研究

研究課題名(英文) At-home end-of-life care and ways of fostering social capital based on regional characteristics

研究代表者

大町 いづみ (OHMACHI, Izumi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授

研究者番号：40342406

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の3県に勤務する訪問看護師444人と介護支援専門員388人を対象に、ターミナルケア態度に影響する要因について、個人属性、主観的健康感、Social Capital (SC) 指標の観点から検討した。ターミナルケア態度尺度得点を従属変数として、各項目の関連性について、統計的解析の結果、訪問看護師と介護支援専門員のターミナルケア態度に関連する要因は、職種間で異なっており、SCとの関連も示された。今後の地域包括ケアシステム構築に向けた終末期医療の質の向上のためには、職種間、地域性に考慮した支援システムを構築していくことの必要性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域で多職種を結び、医療と介護を結び役割を担っている訪問看護師と介護支援専門員のターミナルケア態度と有するSCを測定し関連について明らかにした結果であることから、SCの醸成による終末期医療の質の向上に向けた体制の効率性を高めることができると考える。本研究は全国3地域(年少人口、生産年齢人口、老年人口割合はほぼ同じであるが訪問看護利用率が全国で最も高く、在宅看取り率も高い地域、中間地域、低位地域)での同集団の調査を実施検討した結果であることから、様々な地域で等しく看取りまでできる地域包括ケアシステムを構築できるための、国内外での、在宅緩和ケア実践、体制構築促進の基礎資料となり得る。

研究成果の概要(英文)：The present study investigated factors affecting attitudes toward end-of-life care from the perspectives of individual characteristics, subjective feelings of health, and social capital (SC) indicators. A survey was conducted on participants comprising 444 visiting nurses and 388 long-term care support specialists working in three prefectures in Japan. Statistical analysis regarding the relationship between each survey item and Attitude Toward Care of the Dying Scale score as the dependent variable revealed that factors related to attitudes toward end-of-life care among visiting nurses and long-term care support specialists differed between professions and were related to SC. The present findings suggest that region-specific interprofessional support systems are required to improve the quality of end-of-life care as part of the goal to establish regional comprehensive care systems.

研究分野：地域看護学

キーワード：在宅ターミナルケア ソーシャルキャピタル 訪問看護師 介護支援専門員

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

2025年を境に我が国の高齢者人口は、減少に転じるが、その後は多死時代となり、2040年度の年間死者数は170万人(2025年の1.3倍)近くになると予測されている(厚労省 2017)。

先行研究では、高齢者の訪問看護利用者数が多い都道府県では、在宅で死亡する割合が高い傾向にあった。

近年、人々の協調行動を促進するソーシャルキャピタル(SC)への注目が高まっている。米国でSCが豊かな地域では政治的コミットメントの拡大、子供の教育効果の向上、近隣の治安の向上、地域経済の発展、住民の健康状態の向上など有益な効果をもたらされた(Putnam MD, 2000)。また、SCが蓄積されている地域では、社会の仕組みの効率性が高くなることが示されていた。

地域で多職種を結ぶ、医療と介護を結ぶ役割が大きい訪問看護師と介護支援専門員が有するSCが豊かであれば、よりよい連携に基づくターミナルケア態度が積極的となり、地域全体のSCが醸成される好循環となり、在宅緩和ケア実践への質を向上させることが可能となると考えた。

## 2. 研究の目的

訪問看護師と介護支援専門員を対象として、ターミナルケア態度に関連する要因を主にソーシャルキャピタル(SC)指標の観点から明らかにし、在宅緩和ケアの質の向上に向けた解決策を見出すことである。

## 3. 研究の方法

### (1) 調査対象者

A県、B県、C県の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師444人、居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員388人に自記式調査票による調査を2016年10月～2018年3月に実施した。不完全回答を除いた745人(訪問看護師402人、介護支援専門員343人)を解析対象とした。3県での調査実施の選定理由として、2025年度高齢化率予測は、ほぼ同じであったが、訪問看護利用状況、自宅死の割合では、それぞれ、全国の上位、中位、下位に属していた。3県に在住する対象者の調査から、ほぼ日本全国を標準化した結果が得られるのではないかと考えた。

### (2) 調査方法

予め、研究者より、研究の趣旨説明、倫理的配慮等の説明を電話にて、各訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所管理者へ口頭で説明を行い、内諾が得られた施設へ郵送により無記名自記式調査票を送付した。対象者への調査票の配布は、管理者を通して行い、調査票の郵送による返信をもって本研究への同意とした。

### (3) 調査項目

年齢、性別、現施設の勤務経験年数、家族形態、居住形態、居住年数、身近な人との死別体験の有無、主観的健康感、地域への信頼感、地域医療に対する安心感、近所付き合いの程度、地域活動の有無・内容、日本語版ターミナルケア態度尺度測定項目(3因子30項目、5件法)について調査した。

#### 【日本語版ターミナルケア態度尺度(FATCOD-B-J)】

米国のFrommeltが開発したケア提供者のターミナルケア態度を測定する「死にゆく患者へのターミナルケア態度尺度」を中井らが翻訳し、日本語版尺度として信頼性妥当性が検証(中井ら2006)された尺度。すべての死にゆく患者のケアに関わる専門職で使用することが可能であるとされている。5件法により回答を得るものであり、ターミナルケア態度が積極的になるほど得点が高くなるように配点されている。

#### (4) 分析方法

主要変数の記述的分析の後、「日本語版ターミナルケア態度尺度」得点との関連について、Mann-Whitney の U 検定、重回帰分析を行った。

#### (5) 倫理的配慮

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学系倫理委員会において承認を得たうえで調査を実施した(承認番号:16051236)。

### 4. 研究成果

A 県、B 県、C 県の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師 444 人、居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員 388 人のうち、日本語版ターミナルケア態度尺度の質問 30 項目すべてに回答のあった 745 人(訪問看護師 402 人、介護支援専門員 343 人)を解析対象とした。

対象者の平均年齢は、訪問看護師  $47.2 \pm 8.8$  歳、介護支援専門員  $48.3 \pm 9.1$  歳、勤務経験年数は、訪問看護師  $10.8 \pm 8.8$  年、介護支援専門員  $7.9 \pm 5.7$  年だった。性別では、訪問看護師男性 14 人(3.5%)女性 388 人(96.5%)、介護支援専門員男性 58 人(17.0%)女性 284 人(83.0%)であった。Mann-Whitney の U 検定の結果、全体の解析で地域 ( $p < 0.001$ )、職種別 ( $p < 0.001$ )、性別 ( $p = 0.005$ )、勤務経験年数 ( $p = 0.002$ )、身近な人との死別体験の有無 ( $p = 0.028$ )、地域への信頼感の有無 ( $p = 0.017$ )、近所付き合いの程度 ( $p = 0.010$ )、ボランティア等市民活動参加 ( $p = 0.009$ ) がターミナルケア態度に有意に関連していた。訪問看護師のみの解析では、地域への信頼感 ( $p = 0.007$ )、ボランティア等市民活動参加 ( $p = 0.017$ ) が、介護支援専門員のみの解析では地域 ( $p = 0.040$ )、性別 ( $p = 0.030$ )、勤務経験年数 ( $p = 0.004$ )、主観的健康感 ( $p = 0.021$ ) が、ターミナルケア態度得点に関連があった。

重回帰分析の結果、職種では訪問看護師の方が ( $P < 0.001$ )、勤務経験年数の長い人の方が ( $P = 0.018$ ) ターミナルケア態度得点が高いことに有意に関連していた。また、訪問看護利用状況、自宅死の割合が高い地域の方が、その他の地域と比べ、ターミナルケア態度得点が高い傾向にあり、訪問看護師、介護支援専門員ともに、SC との関連：自治会などの地縁的な活動あり ( $p = 0.010$ )、地域への信頼感 ( $p = 0.020$ ) との関連が認められた。

介護支援専門員に比べ訪問看護師の方が、ターミナルケア態度得点が高い結果は、先行研究結果においても、医療職ではない職種はターミナルケアに対する態度が低いことが示されていた。福祉職では、医療的知識不足などから医療ニーズの高い利用者やターミナルケアに対する不安が高いことも示されている(須佐 2006)ことから、今後の地域での看取りに向けた体制整備のためには、職種の違いに考慮した支援システムの構築の必要性が示唆された。

勤務経験の長さとはターミナルケア態度得点との関連性については、先行研究でも経験の長さとはターミナルケアの積極性との関連が示されていた(真鍋 2007)。経験には時間を要することから、地域での看取りにかかわる知識を高められるネットワークを広げる支援によって、在宅緩和ケアの質の向上に向けた解決策を見出せる可能性が示唆された。

また、訪問看護利用状況と在宅看取り率が高い地域は、訪問看護師と介護支援専門員のターミナルケア態度得点も高く、ソーシャルキャピタル(SC)も高い傾向にあった。SC を醸成させる仕組みを作ることで、在宅緩和ケア実践への質を向上させることに繋がる可能性が示唆された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大町いづみ、有馬和彦、青柳潔	4. 巻 20
2. 論文標題 福祉の現場から 在宅緩和ケアとソーシャルキャピタル醸成に関する研究(解説)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大町いづみ、有馬和彦、富田義人、西村貴孝、安部恵代、青柳潔	4. 巻 77
2. 論文標題 訪問看護師と介護支援専門員のターミナルケア態度に関連する要因	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本公衆衛生学会総会抄録集	6. 最初と最後の頁 352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大町いづみ、有馬和彦、青柳潔	4. 巻 32
2. 論文標題 在宅緩和ケアとソーシャルキャピタル醸成に関する研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BIO Clinica	6. 最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大町いづみ、有馬和彦、青柳潔	4. 巻 20
2. 論文標題 在宅緩和ケアとソーシャルキャピタル醸成に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大町いづみ、有馬和彦、富田義人、西村貴孝、安部恵代、青柳潔
2. 発表標題 訪問看護師と介護支援専門員のターミナルケア態度に関連する要因
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Izumi Ohmachi, Kazuhiko Arima, Yoshito Tomita, Takayuki Nishimura, Yasuyo Abe, Kiyoshi Aoyagi
2. 発表標題 Factors associated with attitudes towards terminal care
3. 学会等名 ICN Congress 2019 in Cingapore (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青柳 潔  (AOYAGI Kiyoshi)  (80295071)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(医学系)・教授   (17301)	
研究分担者	横尾 誠一  (YOKOO Seiichi)  (90508318)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・助教   (17301)	